

横浜市内でIoTスマートホームを用いた第2回生活モニタリング実証実験を開始 ～住むことで生活・暮らしをサポートする家の実現へ～

株式会社NTTドコモ(以下、ドコモ)は、横浜市、and factory株式会社(以下、and factory)、相鉄グループ、富士通コネクテッドテクノロジーズ株式会社、凸版印刷株式会社、株式会社資生堂、三和シャッター工業株式会社、グリーンブルー株式会社、foo. log株式会社と、IoTスマートホーム[®]を用いた第2回生活モニタリング実証実験(以下、本実証実験)を横浜市内で2018年6月12日(火)から開始します。



IoTスマートホーム

本実証実験は、「I・TOP横浜^{※1}」内のプロジェクトとして横浜市、and factoryと開始した「未来の家プロジェクト^{※2}」の取り組みの一つで、ドコモの「AIエージェントAPI」の一つである「IoTアクセス制御エンジン」を活用し、さまざまなメーカーの機器を一元的に管理、制御することで実現しています。

2017年12月～2018年2月に実施した第1回IoTスマートホーム生活モニタリング実証実験に引き続き、第2回は横浜市内で実証実験を行います。本実証実験では、ドコモのIoTスマートホームに被験者^{※3}が1週間居住し、食事、運動、睡眠などの生活データの変化、および健康に対する意識変化や行動変容について評価を行います。第1回実証実験では、さまざまなIoT機器からデータを収集する基盤の運用および、行動パターンの可視化を行いました。第2回実証実験では、ドアの開閉記録や人感センサー値などを解析し、個人の生活パターンを定量的に評価することで、居住者に合わせた健康で快適な居住空間の実現をめざします。

2017年6月に3者で始まった未来の家プロジェクトですが、今回新たに、凸版印刷株式会社、株式会社資生堂、三和シャッター工業株式会社、グリーンブルー株式会社、foo. log株式会社が加わり、10者以上での取り組みへと拡大しました。今後はプロジェクト参画企業との連携により、「健康」に加えて「快適」「安心」「安全」「美容」といった面でもサポートしてくれる未来の住環境の実現をめざします。

※1 I・TOP(アイトップ)横浜は、横浜市が2017年4月に立ち上げた横浜経済の強みである「ものづくり・IT産業の集積」を生かし、IoTなどを活用したビジネス創出に向けた交流・連携、プロジェクト推進、人材育成などの場。

「IoTオープンイノベーション・パートナーズ」の略。

※2 人工知能(AI)およびIoTを活用し、居住者のリラックス度や活動量などの生活状態を可視化することで気づきを与えることや、快適な室内環境づくりを行うことを検討・推進するプロジェクト。

※3 ドコモ社員を含む実証実験関係者14名を予定。

* IoTスマートホームはドコモの登録商標です。

本件に関する報道機関からのお問い合わせ先
株式会社NTTドコモ サービスイノベーション部 第2サービス開発担当 TEL: 03-5156-2124

第2回IoTスマートホーム実証実験

1. 概要

《場所》

相鉄文化会館駐車場(緑園都市駅から徒歩5分)

《実証期間》

2018年6月12日(火)～2018年9月24日(月・祝)を予定
(2018年7月12日(木)に公開を予定)

《実証実験の内容》

被験者がIoTスマートホームで、自宅にいるときと同じように1週間生活し、実験前後での被験者の状態変化、意識変化、行動変容について評価・検証する。

実験スケジュール

	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3
日程	2018年6月12日(火) ～2018年7月9日(月)	2018年7月13日(金) ～2018年8月16日(木)	2018年8月21日(火) ～2018年9月24日(月)
追加 予定 機能	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回実証実験時の機能再検証 ・位置検出床による動線センシング 	<ul style="list-style-type: none"> ・IoT機器連携機能 ・IoTシャッター制御機能 ・チャットボットを介した対話および機器制御 ・食事、美容に関するセンシング 	<ul style="list-style-type: none"> ・室内外環境の詳細センシング ・チャットボットを介した食事、美容などに関するアドバイス

《IoTスマートホームの主な機能》

下線部分が今回新たに加わる予定の機能です。

- ・室内環境(温度、湿度、照度など)センシング
- ・バイタルデータ(体重、血圧、睡眠時間など)センシング
- ・生活動線(ドア開閉、滞留点など)のセンシング
- ・スマートフォンを利用したアプリや対話による家電の一元操作
- ・センシングした情報の可視化(アプリや鏡への表示)
- ・位置検出床による動線センシング
- ・チャットボットを介した対話
- ・食事、美容に関するアドバイス
- ・室外環境センシング



位置検出床による詳細な動線センシングが可能。
見守り応用や位置による適切なアドバイスを予定。



スマートミラーなどに、自身の健康情報や
環境情報を表示して、居住者へ気付きを提供。



食事内容や環境情報などから適切な
アドバイスや化粧品を提供。



IoTシャッターのコントロールや、外の環境情報
のセンシングにより、安心・安全な生活を提供。



スマートフォンを利用してIoT家電操作や情報可視化も可能。

2. 各社の役割

未来の家プロジェクト		IoTと人工知能(AI)を通じて高齢者の見守りや快適で健康的な暮らしを実現するプロジェクト		IoT横浜	
 横浜市 City of Yokohama	企業へのプロジェクト参加呼びかけ、実証実験場所の調整		デバイスで操作できる化粧品吐出マシンの提供		
	IoTスマートホーム [®] 、IoTアクセス制御エンジンの提供、データの管理・解析		実証場所の提供、地域コミュニティへの展開		
	UI,UX デザイン、IoTプロダクトの事業化、事業化に関するノウハウ提供		床のセンサーで居住者の動作情報を収集できるIoT建材によるセンシング		
	環境測定装置の提供、室内外の空気質の計測、センサーの妥当性評価		被験者の健康状態を測定し、健康アドバイスを行うデバイスを提供		
	デバイスで操作できるIoTシャッターの提供		食事解析システム・アドバイスの提供		

未来の家プロジェクトの概要と各社の役割

3. 今後について

2018年10月以降は展示会などへ出展予定です。

本実験で得られた成果をもとに、2018年12月以降も条件や場所を変えて実験を行っていきます。

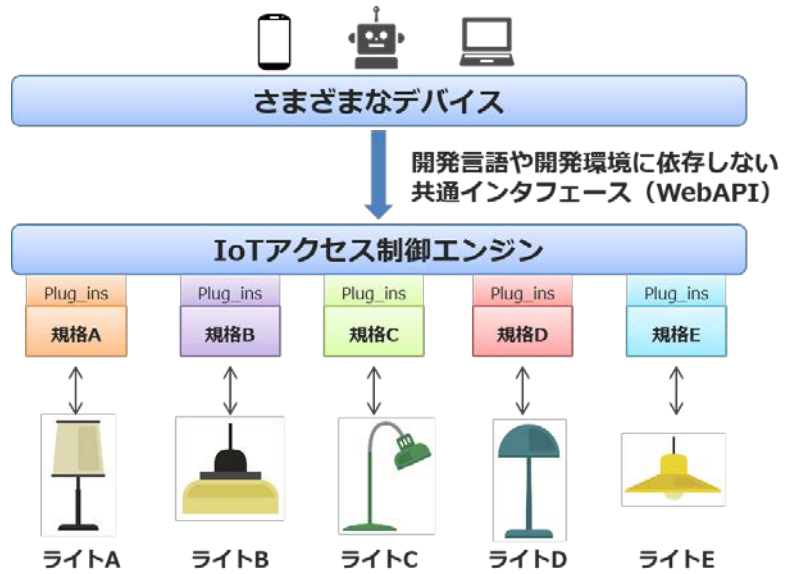
4. 未来の家プロジェクトWebサイト

<http://mirainoie-project.jp/>

5. IoTアクセス制御エンジンについて

ドコモが開発したIoTアクセス制御エンジンでは、デバイスWebAPI[※]の技術を用いており、異なる通信規格のIoT機器を一つのアプリケーションで制御することを可能としています。本エンジンの利用により、さまざまなIoT機器の遠隔管理やデータ蓄積が可能となり、多くのデータ集積が容易で、AI・ビッグデータ解析推進につなげていくことができます。IoTアクセス制御エンジンのご利用については下記からお問い合わせください。

<https://docs.dsymphony.com/>



※ デバイスWebAPIとは、120社(2018年6月1日現在)の企業が参画するデバイスWebAPIコンソーシアムで議論・検討中のさまざまなデバイスとの連携を実現する仕組みです。